

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区北白川追分町 京都大学数理解析研究所図書室 (提臺宛付)

TEL 075-753-7223

- | | |
|----|--------------------------------|
| 目次 | 1. 支部総会が変わります (竹本文夫) |
| | 2. 五十の手習い「レファレンス演習」事始め (岡崎すばる) |
| | 3. 「三くだり半」の効用—新春例会より— (小島沙織) |

初心者には研修、中堅・ベテランには現場実践の報告・交流・研究発表の場に

支部総会が変わります！

京都支部委員会事務局長 竹本文夫

昨年10月の支部総会では現場実践重視の活動方針が決定されました。それを受けて現在支部委員会はその具体化を鋭意討議中です。

その内容は、まず第一に支部総会のあり方を根本的に変え、現場実践の報告をテーマ毎に分科会で報告・交流することを第一の柱にしようということです。第二に初心者にはまとまった研修の場を別に設け、初心者にとっても役立つ総会にすることです。そしてベテランには日頃の研究成果発表の場も設けたいと思っています。

全国大会のイメージに似ていると思われるかも知れませんが、確かに分科会方式など一定似てはいますが、研修の場を設けること、基本を現場実践の報告・交流にしていることなど徹底的に現場に役立つ総会にするという点では画期的な方向ではないかと思っています。

今もっとも問題になっていることは、この総会にどんな分科会を設けるかということです。そのためには、今大学図書館現場ではどこにどんな問題があるのか、また戦後第二の激動期といわれる大学改革の動きはどうか、そして現場の皆さんの意見はどうかなどよく調べ、熟慮し、参加したくなる分科会の設定をしたいと思っています。

みなさん。支部総会はこの秋です。今から半年余り時間があります。これからでも目的意識的な現場実践に挑戦し、支部総会でぜひ発表して下さい。発表はどんな小さなことでも結構です。問題は改善に向かって半歩でも一歩でも挑戦することであり、問題の大小や高級かどうかではありません。どんな小さなことでも同じような問題に悩んでいる人には貴重な参考となるでしょう。

みなさん。支部総会の持ち方について、あるいは初心者研修のテーマについて、また分科会は何々が良いかなどご意見をぜひお寄せください。

このような総会はまったく未経験のことです。でも現場に役立つ総会ってすばらしいとは思いませんか。現場実践を中心とすればきっと笑いと涙、連帯感あふれる元気の出る総会となることでしょう。

この未経験ではあるが意義ある総会を成功させるためには皆さんの知恵と実践を総結集する以外に方法はありません。皆さんの積極的協力と参加を心から支部委員会は期待しています。

五十の手習い「レファレンス演習」事始め

岡崎すばる

「レファレンスに関心を持っている皆さん」で始まる京都支部・大図研大学第Ⅱ期開講案内中、基礎科目(3)レファレンスの内容と参加呼びかけに応じて入門の名乗りをあげたのが7名。担当者の竹本氏を合わせてメンバー8名のスタートでした。

その第1回目は10月25日午後7時より同志社大学図書館共同閲覧室にて開講。かく報告する筆者(遙か大和川の彼方から淀川を渡り、鴨川の辺りまで白頭振りかざしての入門。志は厚けれど恥ずかしい・・・)は当日やむなき事情で欠席したのでその時の有様詳しく語るわけにはゆかないのだが、この後すぐに竹本さんから届けられたレジュメによれば、この日は、①自己紹介(多分参加動機とか要望抱負の類

を述べたのであろう) ②今後の進め方の討議。当夜の話題提供の為に配布された資料(後に詳述)を繰りながら、まず▲「日本の参考図書」やGuide to reference booksなどの基礎的参考図書の使い方に習熟する問題 ▲データベース検索及び参考図書との組み合わせの問題 ▲「参考ツールへの接近方法」の探究などに焦点を合わせて、「実際にあった質問、自分が探している資料等、現場の具体的な体験から出発して、それらを接近経路別に整理してみようという方法で・・・」というような提案が竹本さんからされ、次回からは皆が実際に受けた質問を2例ずつ持ち寄り、回答に到達するまでの(探索途上の行き詰まりも含めて)調査、探索の経路(思考経路も)を克明に、具体的に用いたツールのコピーを添えて、つぶさに報告し合うことなどを決めて散会した模様でした。

こんな形で第2回例会を11月15日に、年改まった1月24日に第3回をと、同志社大クローバーハウス2階にて回を重ねている。ベテランも初心者も夫々に実例を報告し、聞く側は経験に照らして評価を加えたり、足らざるを指摘したり、更に調査・探究の余地あるものは次までに皆で調べてきましょうと宿題になったりする。今回は先回の見落としやその後の調査を付け加えたりして、求められた回答への完成度を深める作業を怠らない。これには感服するばかりです。この夜間の学び合いの回を重ねるごとに竹本氏はじめ参加者の切なる願いは「基本的なツールのある場所でやれたらなァ」ということです。どなたか良い場所を提供して下さる方はおられませんか？

筆者はレファレンスにおいても全くの未熟者である故に、この演習の様相を鮮やかに切り取って示すことができなくてジレルのですが、入門して強烈な衝撃を受けたことを一言。

第1回目に話題提供の為にとさりげなく配布された資料なのです。他の方はいざ知らず、筆者にはこれはもうビックリ(今風にいうと“ガーン”!!)なのでした。資料1 同志社大学図書館学生実習用の「初級例題72問」 資料2 同大図書館閲覧課職員研修用「初級例題30問」 資料3 大図研学校第1期(後期)ワークショップ参考調査「中級例題40問」と夫々の回答例集(利用ツール列举)。以上。この大部なる資料集を一見して愕然としてしまったのです。図書館学を学んでいた学生の間も、25年にも及ぶ図書室職員をしてきた今までも、研修と名のつくものにも参加してきたのだが、このような演習を課せられたことがあったでしょうか!以後、カウンターで少し時間が出来るとこの例題集を広げて、回答例をトレースする作業にいそむようになっていく。実例として報告出来るような質問もめったに来ない学部図書室で、書庫整理に費やしていた時間をこの為に少し割いて、カウンター生活にも一つの彩りが加わった昨今です。

(大阪府立大学経済図書室)

「三くだり半」の効用

—近畿五支部合同新春例会より—

京大教育学部図書室 小島沙織

お正月気分もさめやらぬ1月18日、近畿五支部合同新春例会において、井ヶ田先生による「三くだり半」の講演がありました。

女性の側からは、「とっとと出ていけい」とばかりにたたきつけられるイメージがあった「三くだり半」でしたが、先生のお話を拝聴するうちに、どんどんイメージが変わっていきました。

「三くだり半」の特徴は、その無因性と再婚認容文言にあります。つまり、「どうして離縁するのか」が記されておらず、かつ、「今後、誰と結婚しようと自分は一切文句を言わない」という意味のことが記されているということにあります。

無因性は、再婚のときに差障りがないようにとの配慮からではないかと考えられているようです。

再婚認容文言は、その言葉通り大切な意味をもっています。「公事方御定書」（寛保2年・1742）では、「離縁状を渡さないで後妻をもらった者は所払（その時点に住んでいた所からの追放）、離縁状をもらわないで他へ嫁いだ女は髪を剃り、親元へ帰す」と定められていました。貞享4年（1687）に、離縁状の授受なき結婚、つまり重婚は、「男は牢舎、女は死罪」と定められていたのに比べると、罪が軽くなったといえますが、それでも、再婚に際して離縁状がいかに重要な意味をもっていたかがよくわかります。権力のある妻の実家に無理やり離縁状を書かされたというケースも実際にあったようです。

では、どうしても離縁状を書いてもらえない場合、どうしたらよいかというと、縁切寺、俗称駆込み寺に駆込めばよいのです。当時、寺院は聖域で、どんな者でも一歩そのなかに入れば追手から逃れることができました。縁切寺に駆込んだあとは、出役が調停の役割を果たしてくれます。

井ヶ田先生は始終熱っぽい語り口調で、ぐいぐいと話に引込まれてしまいました。事前に配られた資料も大変興味深く、わかりやすいものでした。

それにしても、相手の合意なしに縁を切るのに、俗世から離れなければならないというのは、いかにも意味ありげで、思わず考え込んでしまいました。古今東西、男女の縁、殊に夫婦の縁には、はかりしれないものがあるのでしょうか。未婚の者にとっては、少し、空恐ろしいような気がしました。

年の始めに、良い講演を拝聴できて、とてもよい刺激になりました。何にかかわらず、少しでも知っていることが増えるのは、気持ちのいいものです。今年もやる気いっばいの一年になりそうです。